

郡山市少年湖畔の村の活用に係る市場性アンケート調査

サウンディング実施結果

1 実施概要

(1) 本施設のサービス廃止後の譲渡に関するニーズの確認のためこの調査を実施しました。

(2) 対話日時

令和7年11月28日(金)から12月19日(金)

(3) 参加事業者

8社

(4) 主な意見

下記のとおり

(5) 今後の予定

今回の調査結果については、今後の施設方針の参考資料とさせていただきます。

質問事項	主な意見
利活用への関心	関心あり 3社 関心なし 5社
利活用案	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設 ・ワーケーション施設 ・不登校児童用のフリースクール ・都会の学生へ田舎の経験をさせる体験施設 ・湖畔での事業とセットでの運営 ・アーティストインレジデンス ・一次産業の加工場、養殖場 ・観光用宿泊施設 <p>その他飲食、アクティビティ、教育研修等への利用</p>
市への確認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所指定の位置付け・要件・譲渡後にも指定は継続されるのか ・稼働率 ・大規模改修する場合の法的規制 ・譲渡までのスケジュール感 ・施設の現況に関する詳細情報 ・施設の老朽化状況 ・今後想定される補修範囲 ・法規制の有無（土地、建築、自然環境） ・インフラの状況 ・上下水道、電気容量、通信設備等の設備の状況 ・施設の維持管理費 ・年間の利用状況、利用者属性の詳細 ・譲渡条件（価格、負担区分、時期等）の考え方
利活用の懸念点	<ul style="list-style-type: none"> ・譲渡費用 ・維持管理費 ・改修や事業を行うにあたっての法的規制 ・当施設を事業者が購入した場合の住民感情 ・譲渡に至るまで処理が長期化した場合、どのように少年湖畔の村を運営しつつ、売却や譲渡されるのかという道筋

その他	<ul style="list-style-type: none">・夏場の合宿利用が見込めることから、スポーツ広場や廃校した小中学校と連携して合宿利用を充実させることもできるが、冬期の利用は厳しい。・宿泊業を継続するにあたり、現在の価格設定では利益を出せない。・宿泊業に限らず、企業協賛を積極的に得られる業種ならば採算がとれるのではないか。・高付加価値の宿泊業での利用としても周囲に飲食店が一つもないため宿泊業は厳しい。・従来の社会教育施設および宿泊施設としての活用はもちろんのこと、ラムサール条約湿地、猪苗代湖のそばである意味合いが大きいことから、環境教育の普及やビジターセンター的役割、教育旅行の誘致、さらにはビジターへの観光案内により一層力を入れた活用が望ましいと考える。・その地域で事業を展開するにあたり、地域からのバックアップは必要になるため、地域住民と共に存できるような事業が望ましい。・当該施設は、猪苗代湖畔という優れた自然環境と多様な研修、宿泊機能を併せ持ち、周辺の観光資源とも高い相乗効果を生み出せるポテンシャルがあると考えている。
-----	--